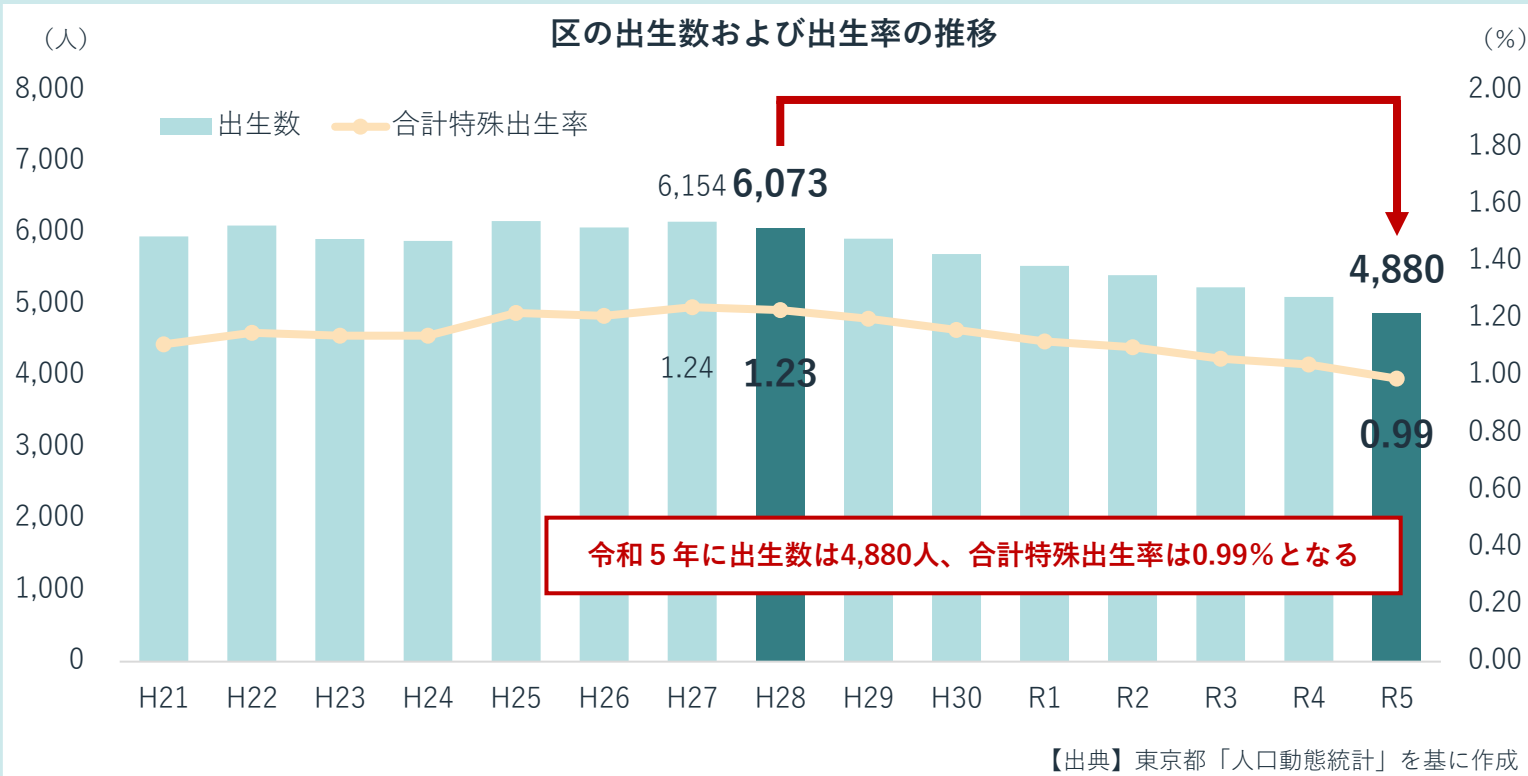


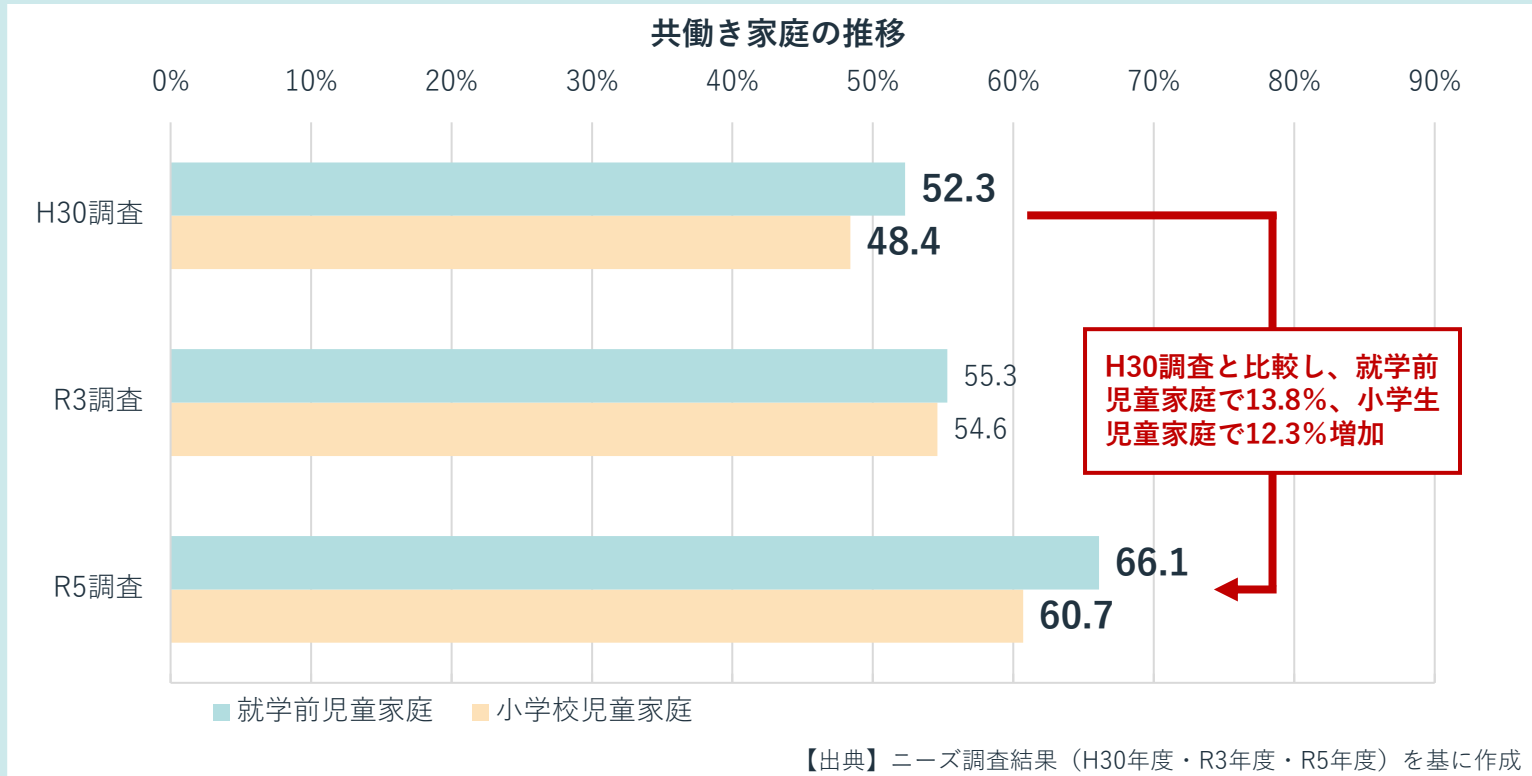
子どもや子育て家庭を取り巻く状況

●日本全体で少子化が進む中、区の出生数も減少傾向が続いている。一方、共働き家庭の更なる増加や男性の育児休業制度の利用が進むなど、保育ニーズは依然として増加し、多様化している。

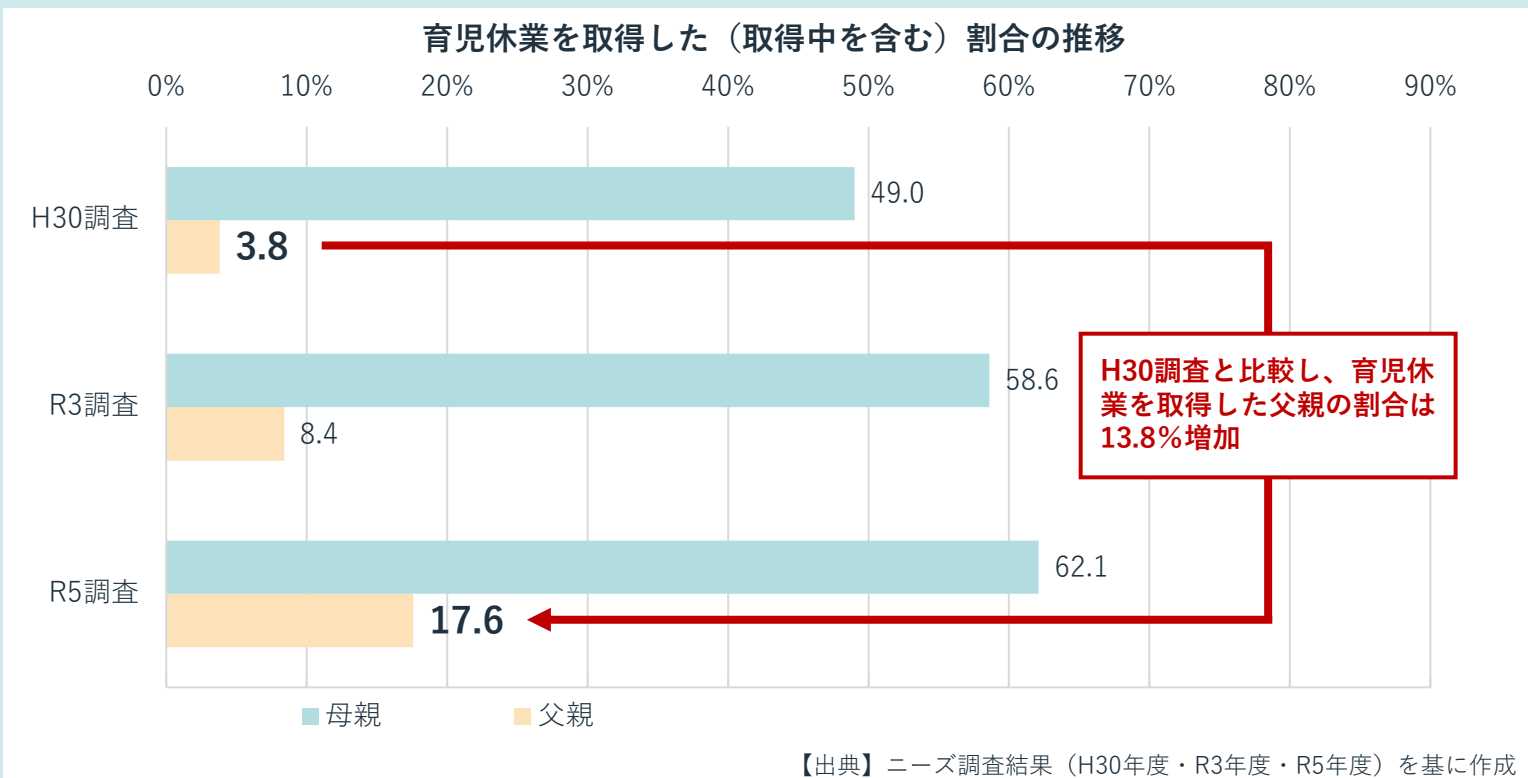
① 区の出生数および出生率は、平成28年以降、一貫して減少を続ける



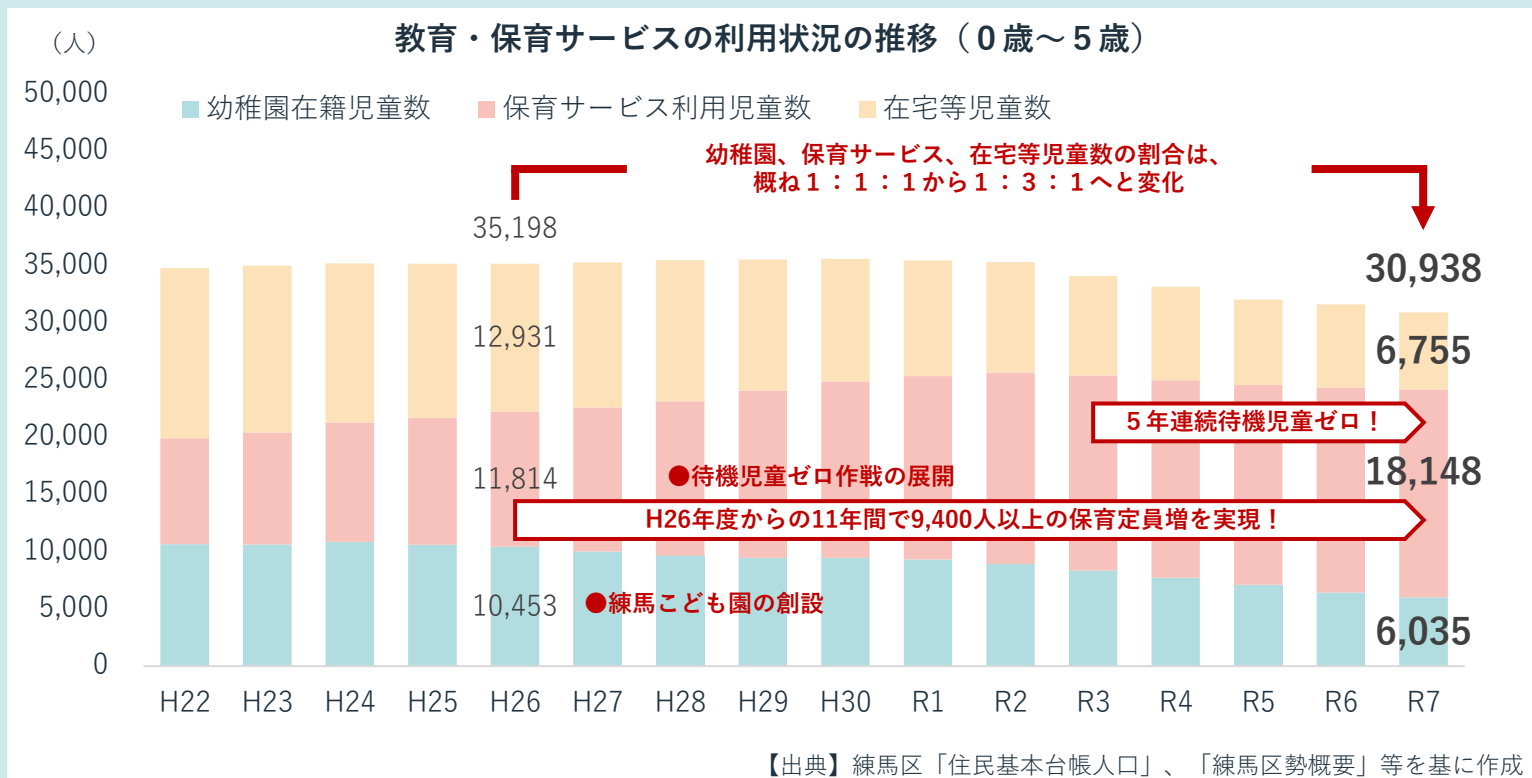
② 就学前児童家庭、小学生児童家庭ともに、共働き家庭は増加傾向にある



③ 育児休業を取得する父親が、近年急増している



④ 保育サービス利用児童数が増加し、幼稚園在籍児童数や在宅等児童数は減少している



▶ 東京都は令和7年9月から第1子の保育料を無償化、令和8年度からはこども誰でも通園事業が本格実施される
 様々な状況変化に対応しながら、保護者の希望に応じた社会的サービスを充実し、子育てのかたちを選択できる社会を実現していく